

イメージ構造とリスト浮標

ポール・G・ドウディス
(ギャローデット大学 [アメリカ])

要旨

手話言語学においては、位相的な空間使用と非位相的な空間使用を区別する。位相的な空間は通常、三次元の世界の存在物の中の空間的な関係の表示と考えられている (Johnston and Schembri 2007)。これに対して非位相的な空間は抽象的で空間的な関係を表示しない。非位相的空間使用の例としては、トークンブレンド (Liddell 2003) があり、そこでは抽象的な概念が手話話者の前の限られた空間部分に投射される。そして話者がこのトークンを指し示す時、そのトークンが表す存在物が参照される。その存在物の物理的な性質は、特定の大きさや形などがどのようなようであっても、トークンブレンドには投射されない。

非位相的空間を抽象的なものとする記述は、この空間が人間の知識や認知能力からは独立した現象であるという主張だとみなされ得るだろう。この観点からは、位相的空間と非位相的空間は、人間の知識と認知能力がこのような空間を構成するかどうかという点において異なっている。従って、位相的空間は人間の現実世界の場面での経験からくる話者の即時的な空間への構成の投射と記述されうる。同様のことは非位相的空間では起こり得ない。投射が可能な抽象物 (例えば実体のない、物理的ではない存在など) については、話者は「現実世界の」直接の経験としては語り得ないからである。

本発表では、リスト浮標のいくつかの例を分析することによって、この問題を認知言語学の観点から記述する。基本的な形式として、リスト浮標は聞き手でない方の手の指先をあるカテゴリーの存在物と関連付ける。トークンと同様に、この指先も当該の存在物に関するどのような物理的側面も表示しない。このリスト浮標はどのような「世界に現存し得る」存在物の中の空間的な関係も示さないことから、この浮標リストの例の構成は非位相的空間の構成と比較が可能であると考えられる。(この位相的、非位相的という用語は、他の所では手のイメージを介した使用というよりは、手話空間の使用を性格づけるものである)。

しかし、リスト浮標には空間的關係に参与したりこれを表す例も存在する。このような浮標については、ここでは、人間の知識の一部である、個人に特定の日常世界での身体的なインタラクションによってスキーマに組み込まれた、イメージを介した概念によって構成される存在として分析する。これらの概念は、イメージスキーマ (Johnson 1987) や、概念原型 (Langacker 2008) という概念に、それらを例示するものではないにしろ、関わるものである。平面構造や線形構造の概念は、上記の意味では抽象的なのではなく具体化されている。すなわち、それぞれが、Engberg-Pedersen (1993) に記述されるように、カレンダーの平面と時間線の連続を構成するのである。スキーマティックな三次元の

イメージを介した構成は、場面概念と呼ぶこともできるものであるが、本質的に代用スペース (Liddell 1994) や描写スペース (Liddell 1994) と記述されてきたものである。Liddell に提示する代替案は、いかに—浮標リストやトークンを人間の経験から移動させた何かの投射であると仮定するよりも—我々がそれをどのように、物理的な対象の概念原型 (Langacker 2008) のように、イメージを介した概念によって構成されるものだと考えるかということである。

参考文献

- Engberg-Pedersen, Elisabeth. 1993. *Space in Danish Sign Language: The Semantics And Morphosyntax of the Use of Space in a Visual Language*. Hamburg: Signum Press.
- Johnston, Trevor and S. Adam Schembri. 2007. *Australian Sign Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Johnson, Mark. 1987. *The Body in the Mind: The Bodily Basis of Meaning, Imagination, and Reason*. Chicago: University of Chicago Press.
- Langacker, Ronald W. 2008. *Cognitive Grammar*. Oxford: Oxford University Press.
- Liddell, Scott K. 1994. Tokens and surrogates. In Inger Ahlgren, Brita Bergman, and Mary Brennan (eds.), *Perspectives on Sign Language Structure. Papers from the Fifth International Symposium on Sign Language Research*, vol. I. University of Durham, England: The Deaf Studies Research Unit, 105–119.
- Liddell, Scott K. 2003. *Grammar, Gesture, and Meaning in American Sign Language*. Cambridge: Cambridge University Press.